令和４年度の学校評価

ア　自己評価結果等

前年度の重点目標	今年度、創立５０周年の節目を迎え、今まで以上に安全で安心な学校づくりを家庭や地域と連携を図りながら推進する。そして３年間の学びを通して、生徒や保護者の夢に繋がる指導を進め、社会から期待される生徒の育成を目指す。 (1) 生徒との好ましい人間関係をつくり、職員と生徒が一丸となって教育活動に取り組む。 (2) 基礎・基本を大切にして、分かりやすい授業を実践すると共に、生徒の学習意欲を引き出すための授業改善に取り組む。 (3) 生徒が自ら目標を設定し、目標達成のために行動する姿勢を育成する。 (4) 基本的な生活習慣の確立を図り、全校生徒が自ら進んであいさつができるように、生徒会を主体としたあいさつ運動の支援を行う。 (5) 生徒を地域のイベントに積極的に参加させるなど、より多くの学びの機会を設け、活動を通して達成感や自己有用感などを体得させ、自ら進んで学ぶ姿勢を養う。 (6) 工科高校として、時代と地域社会に即した教育の在り方について研究する。 (7) 普段の教育活動や行事内容について、ホームページなどを積極的に活用して、家庭や地域社会に向けた情報発信に努める。

項目	重点目標	具体的方策	評価結果と課題
総務部	・創立５０周年記念事業に向け、同窓会とＰＴＡ、学校が団結して取り組む。 ・防災意識の向上と防災対策の充実をはかる。	・創立５０周年を迎えるにあたり、同窓会やＰＴＡと連携し、生徒が在校生としての誇りを持つような記念式典を目指す。 ・地域や碧南市などと連携し、避難所開設訓練を実施する。	・５０周年記念スローガンと記念ロゴを生徒が作成したことで、生徒一人一人に、大きな節目の年に在籍しているという自覚を持たせることができた。事業の一つとして記念誌を発行し、本校５０年のあゆみをまとめることができた。 ・本校生徒と、碧南市や地域住民らが連携し、災害時の避難所開設のための勉強会を、年間を通じて実施した。年度末には、その総まとめとして、避難所開設訓練を実施することができた。
教務部	・新校務支援システム（スクールエンジン）の導入に対して、現行システムからの生徒情報の移行および校務における運用を進める。 ・入試制度の改変に合わせて、校内業務との調整を図りながら入試業務を遂行する。	・新校務支援システム（スクールエンジン）への移行において、職員向け運用マニュアルの作成や講習を通じて操作方法を周知させる。 ・業務の停滞を招かないように、担任や関連分掌と連絡を取り合いながら効率的に進める。 ・入試制度の改変による校内の入試要項の見直しを早めに行い、選抜委員会を経て、全職員に周知できるようにする。 ・分掌内において、業務の分担を明確にして、平常の学校運営と入試業務を並行して進める。	・校務処理においてスクールエンジンを活用できるように、準備し軌道に乗せることができた。今年度からの導入であるため、職員の各種操作、スムーズな活用の定着にはまだ時間が掛かる。 ・選抜種別ごと早期に校内入試要項案を作成し、選抜委員会での協議を経て、検査当日に臨むことができた。過密な年度末の日程について、今年度の様子から次年度の年間学校行事日程の調整へ反映させることができた。
図書部	・with コロナ時代の図書館の在り方を構築する。 ・生徒の図書館利用の減少を食い止める。	・図書オリエンテーションや読書感想文コンクールなどの図書館活動や、授業および部活動の図書館利用において、負担にならない感染対策を模索する。 ・魅力的な図書館のディスプレイや生徒が読みたいと思う新刊図書を整備する。	・無理のないコロナ感染対策をしながら、コロナ前の通常の図書館活動を行うことができた。 ・魅力的な図書館になるよう工夫したが、まだ目に見える成果は出ていない。

生徒指導部	・社会のルールや　マナーの遵守、規範意識の確立 ・いじめの早期発　見と適切な事案　対処	・学校活動を通して、マナー、モラルを意識させ、社会の一員としてのルールの重要性と遵守を自覚させる。 ・いじめの情報収集、事案対処の在り方について検証し、いじめの早期発見に努めるとともに適切な対処を行う。	・近隣から生徒のマナー違反について多くご指摘をいただいた。規範意識に乏しい生徒がいるので、機会あるごとに全職員で生徒の意識変革をできるように心に響く指導を心がけた。 ・学校生活で嫌な思いをした生徒が複数名いた。いじめ・不登校対策委員会を開き、組織的な対応を図った。引き続き「いじめは絶対にゆるさない」という全職員の共通理解のもと教育相談や生活アンケートを活用し、早期発見・早期対応に努めていきたい。
特活部	・部活動や学校（生徒会）行事への積極的な参加を促す。 ・福祉・ボランティア活動を通して慈愛の心と社会人基礎力を養う。	・３年間の部活動の定着及び活性化を図る。 ・生徒会の行事が生徒主体で行えるように計画し支援する。 ・福祉・ボランティア活動を通して、地域に貢献できる生徒の育成を目指す。 ・あいさつのできる社会人の育成を目指す。	・継続して部活動に取り組めていない生徒が少なからずいる一方、一生懸命に取り組み、顕著な成績を残した生徒もいる。 ・学校行事を生徒会中心に計画できるようになってきた。 ・多くの生徒が積極的に清掃ボランティアへ参加している。 ・生徒会執行部発案のあいさつ運動を年間１００回以上実施することができた。
進路指導部	・教育活動全般を通して正しい職業観・勤労観を育み、生徒の進路選択、進路実現の支援に 努める。 ・選科の実施に当たり、生徒の将来設計を考えた選択ができるように努める。	・担任を柱として、学科や職員との連携を深め、情報提供および情報交換を密にし、連携をした進路指導を目指す。 ・二分掌制となるため学年の進路担当と連携して、学年会とキャリア教育の充実を図る。 ・選科実施の当たり、学年会、学科主任、家庭科主任と協力をして分かりやすい資料作成や情報提供を実施し、選科作業を進め、選科の年間計画を確立させる。	・面談情報を作成し、担任・学科主任との連携を図り、進路指導を充実させることができた。 ・来校企業のＱＲコードを作成し、生徒への情報提供を行うことができた。 ・各学年への進路講話の充実を図り、学期に沿った進路指導を協力して実施できた。例年よりも多く学年への進路講話を実施し、キャリア教育の充実に努めた。 ・選科においては、保護者説明会を実施し、生徒面談の充実を図り、選科でのキャリア教育の充実に努めた。
保健厚生部	・基本的生活習慣を確立させ、心身の健康を保ち自主的な健康管理が行えるようにする。 ・新型コロナウイルス感染防止対策の徹底。	・集団、個別の保健指導を行い、健康に対する意識の向上を図る。 ・保護者、教員、関係機関が連携して個別の支援について検討する。 ・新型コロナウイルス感染防止対策について継続的に注意喚起と予防に努める。	・各種健診結果を疾病の治療に役立てることができた。 ・生徒情報ファイルを作成し、緊急時対応に役立てることができた。また生徒理解と適切な対応を検討することができた。 ・基本的な感染症対策は継続する。
工務部	・資格取得の推進と情報提供 ・校内の生徒用情報端末の整備	・資格取得や競技会において、必要な情報を生徒に伝え、挑戦を促す。 ・生徒用タブレットの配備を速やかに行う。	・高校生ものづくり競技大会全国大会に出場することができた。来年度からはリスニング英語検定について、２年生での全員実施と指導体制の充実を図りたい。 ・生徒用タブレット端末の配備や持ち帰りへの対応を適切に行う事ができた。故障への対応について校内の体制を整えて行くことが課題である。

機械科	・安全作業や基礎・基本の定着を図るとともに機械教育の探究に努める。 ・時代と地域社会に求められる人材の育成を行う。	・授業や実習の各単元の目標や目的の明確化を図るため、テキストや資料のデジタル化を推進する。 ・企業見学や、地域イベントへの参加を積極的に行い、企業からの要望や地域の声を集約し、授業や実習テーマについてキャリア教育の最適化を図る。	・おおむね実習テキストをデジタル化することができた。今後は指導者マニュアルもデジタル化し、評価や安全作業の標準化を推進していきたい。 ・おもしろものづくり教室や会社見学を実施し、また近隣事業所の協力により各種技能講座も実施することができた。
電子工学科	・くくり募集を生かした幅広い学びに加え、専門分野での学ぶ力の向上を図る。 ・広報活動の実践	・事業所見学や地域イベントへの参加を行い、自己の進路実現に向けた学習意識と社会人として求められる人間力の向上を図る。 ・中学校訪問や学校説明会など外部への情報発信において、配布資料やホームページの充実を行う。	・事業所見学や、卒業生ガイダンスを実施し、自己の進路選択に生かす活動が出来た。次年度以降も、継続して行っていく。 ・動画を利用した説明会などを行った。関心が膨らむ広報活動を増やしていきたい。
建築科 建築デザイン科	・確かな資質・能力を育み、キャリア教育を行う。 ・家庭や地域に対する情報発信を行う。	・ＩＣＴ機器を用いた授業を通し、生徒の興味関心を引き出すような授業を行うとともに、専門の資格取得を目指す。 ・上級生による情報交換や卒業生によるキャリア教育の向上を目指す。 ・大学、専門学校、地域主催の建設系のコンペなどに積極的に参加し、建設業の興味関心の向上を目指す。	・ＩＣＴ機器を用いて安全教育を行う事ができた。事故防止の動画を交えた授業展開を来年度は目指したい。 ・在校生のキャリア教育の充実が図れた。建設系コンペなどにも積極的に参加することができた。
環境工学科 環境科学科	・基礎・基本の定着と資格取得の充実を図る。 ・環境科学。生活コースの学習内容の充実を図る。 ・地域へ向けた環境科学科のＰＲ活動の充実を図る。	・新教育課程のスタートともに環境科学科の学習内容、目標とする資格取得を明確にして、全教員で指導に当たる。 ・環境科学科の基礎となる製品評価や品質管理実習、生活コースの実習内容を検討して充実させる。 ・校外イベント等への積極的に参加をするとともに、ホームページによるＰＲ活動をする。	・品質管理検定などの取得を目指し、丁寧な指導を行ってきた。なぜ、必要なのかを職場見学等の体験できる機会をより増やしていきたい。 ・品質管理実習、生活コースの実習を充実させてきた。ＩＣＴ機器を活用した実習内容をより充実させていきたい。 ・エコカーなどの大会に参加し、ＰＲ活動を充実させてきた。来年度は、学校のホームページに反映させたい。
３年学年会	・基本的生活習慣の定着と社会人基礎力の向上 ・進路実現に向けてのキャリア教育の充実	・時間を守り、自己管理ができる生徒を育てる。さらに前に踏み出す力、考え抜く力、チームで働く力など、社会人として必要な能力の向上を図る。 ・進路を実現させるための自己分析と企業研究を進め、学力の向上を図り、自らが希望する進路を実現させる。	・多くの生徒が時間を守って行動することができた。進路決定後も社会人として必要な資質を伸ばすため、粘り強く指導することができた。 ・一部、希望する進路を実現できなかった者もいたが、全員が納得のいく形で進路を決定することができた。

２年学年会	・基本的生活習慣の定着 ・礼節を重んじた行動 ・進路実現に向けてのキャリア教育の推進	・５分前行動を習慣づけ、自ら率先して行う挨拶と身だしなみの向上を図る。 ・自己分析を通して、将来像を考えさせ、進路実現のために何をしたらよいのか、思考を深めさせる。 ・部活動や学校行事、資格取得、ボランティア活動に積極的に参加させる。	・概ねの生徒が行動規範を意識して学校生活を送れた。 ・生徒が自己の将来像を描くためにＨＲで様々な活動に取り組めた。今後は、目標が具体化し、行動が伴うように指導する。
１年学年会	・基本的生活習慣の確立を図る。 ・工科高校生としての自覚をもたせ、将来への目標を設定させる。	・５分前行動や自ら挨拶することを心掛けさせる。 ・家庭との連携を密にし、気になる生徒の対応を迅速にする。 ・高校生活を通し、資格取得やボランティア、部活動等に目標をもって取り組ませる。	・遅刻間際の登校は少なかったが、寝坊等を理由とした大幅な遅刻は、２学期以降激増した。 ・生徒の対応は、概ね良好であった。 ・資格取得率、部活動参加率とも期待を下回る数字を残すこととなった。積極的な学校生活が送れるような手立てを考えたい。
総合評価	・安全で安心な学校づくりを推進するための取り組みを実施し、教職員の意識改革を進めることができた。 ・生徒用タブレット端末が配備され、学習活動における生徒の積極的な使用が進んだ。今後は、故障等への対応について迅速に行える組織を整えていくことが課題となった。 ・高校生ものづくりコンテストでは、電子工学科が電子回路組立競技で全国大会、環境科学科が化学分析競技で県大会、溶接競技大会アート部門等、各工業に関する大会で入賞した。３年間の工業科の学びが社会から期待される生徒の育成に繋がってきている。		

イ　学校関係者評価結果等

学校関係者評価を実施した主な項目	・学習状況、進路状況、資格取得等について
自己評価結果	・学習指導については、担任と教科の連携を密にし、きめ細かな指導を継続しているが、学習習慣や基礎学力のまだ定着は十分であるとはいえない。また、進路指導については求人数の増加もあり、充実させることができた。また、アンケート結果から保護者は、資格取得の充実を期待している。
今後の改善方策について	・学習習慣と基礎学力を定着させるために、今後も教員間の意思疎通を図り粘り強い指導を行う。また、社会人として必要な能力を身につけさせるため、積極的に資格取得に取り組ませたり、校外での学習や地域との連携事業を推進し規範意識を高めたい。
その他（学校関係者評価委員から出された主な意見、要望）	・ボランティア活動など地域行事への積極的参加、学校の宣伝活動を行い、地域の方に認知してもらいたい。 ・挨拶、言葉遣い、自転車の交通マナーだけでなく、ＳＮＳ等の進歩「言葉」によるコミュニケーション力が低下を招き、その影響が社会全体にもみられる。
学校関係者評価委員会の構成及び評価時期	・構成‥‥‥学校評議員５名（前ＰＴＡ会長含む） ・評価時期‥２月中旬